

災害に備える

～生命と暮らしを守るために～

自分の身は自分で守る

《地震・津波災害編》

- 1 地震の発生状況
- 2 地震災害に備える
- 3 津波から逃げる
- 4 その他

主催：亀ヶ崎ほっとけあ

日時：令和7年6月24日（火）10時40分～

場所：亀ヶ崎コミュニティ防災センター

酒田市総務部危機管理課

1 地震の発生状況

近年の地震情報

震度 6 弱以上

(2009年以降)

	発生日時	震源地	マグニチュード	最大震度
1	2009年08月11日05時07分頃	駿河湾	M6.6	6弱
2	2011年03月11日14時46分頃	三陸沖	M7.9	7
3	2011年03月11日15時15分頃	茨城県沖	M7.4	6弱
4	2011年03月12日03時59分頃	新潟県中越地方	M6.6	6強
5	2011年03月12日04時32分頃	新潟県中越地方	M5.8	6弱
6	2011年03月12日05時42分頃	新潟県中越地方	M5.3	6弱
7	2011年03月15日22時31分頃	静岡県東部	M6.0	6強
8	2011年04月07日23時32分頃	宮城県沖	M7.4	6強
9	2011年04月11日17時16分頃	福島県浜通り	M7.1	6弱
10	2011年04月12日14時07分頃	福島県浜通り	M6.3	6弱
11	2013年04月13日05時33分頃	淡路島付近	M6.3	6弱
12	2014年11月22日22時08分頃	長野県北部	M6.7	6弱
13	2016年04月14日21時26分頃	熊本県熊本地方	M6.5	7
14	2016年04月14日22時07分頃	熊本県熊本地方	M5.7	6弱
15	2016年04月15日00時03分頃	熊本県熊本地方	M6.4	6強
16	2016年04月16日01時25分頃	熊本県熊本地方	M7.3	7
17	2016年04月16日01時45分頃	熊本県熊本地方	M6.0	6弱
18	2016年04月16日03時55分頃	熊本県阿蘇地方	M5.8	6強
19	2016年04月16日09時48分頃	熊本県熊本地方	M5.4	6弱

	発生日時	震源地	マグニチュード	最大震度
20	2016年06月16日14時21分頃	福井県内浦湾	M5.3	6弱
21	2016年10月21日14時07分頃	鳥取県中部	M6.6	6弱
22	2016年12月28日21時38分頃	茨城県北部	M6.3	6弱
23	2018年06月18日07時58分頃	大阪府北部	M6.1	6弱
24	2018年09月06日03時08分頃	胆振地方中東部	M6.7	7
25	2019年01月03日18時10分頃	熊本県熊本地方	M5.1	6弱
26	2019年02月21日21時22分頃	胆振地方中東部	M5.8	6弱
27	2019年06月18日22時22分頃	山形県沖	M6.7	6強
28	2021年02月13日23時08分頃	福島県沖	M7.3	6強
29	2022年03月16日23時36分頃	福島県沖	M7.4	6強
30	2022年06月19日15時08分頃	石川県能登地方	M5.4	6弱
31	2023年05月05日14時42分頃	石川県能登地方	M6.5	6強
32	2024年01月01日16時10分頃	石川県能登地方	M7.6	7
33	2024年01月06日23時20分頃	能登半島沖	M4.3	6弱
34	2024年04月17日23時14分頃	豊後水道	M6.6	6弱
35	2024年08月08日16時43分頃	日向灘	M7.1	6弱

1 地震の発生状況

7月5日に大地震の予言は「デマ」と

気象庁長官 「現代科学で予知は不可能」

余談ですが...

SNSなどで拡散している「2025年7月5日に大地震が日本を襲う」という情報について、気象庁の長官が「デマである」との見解を示しました。

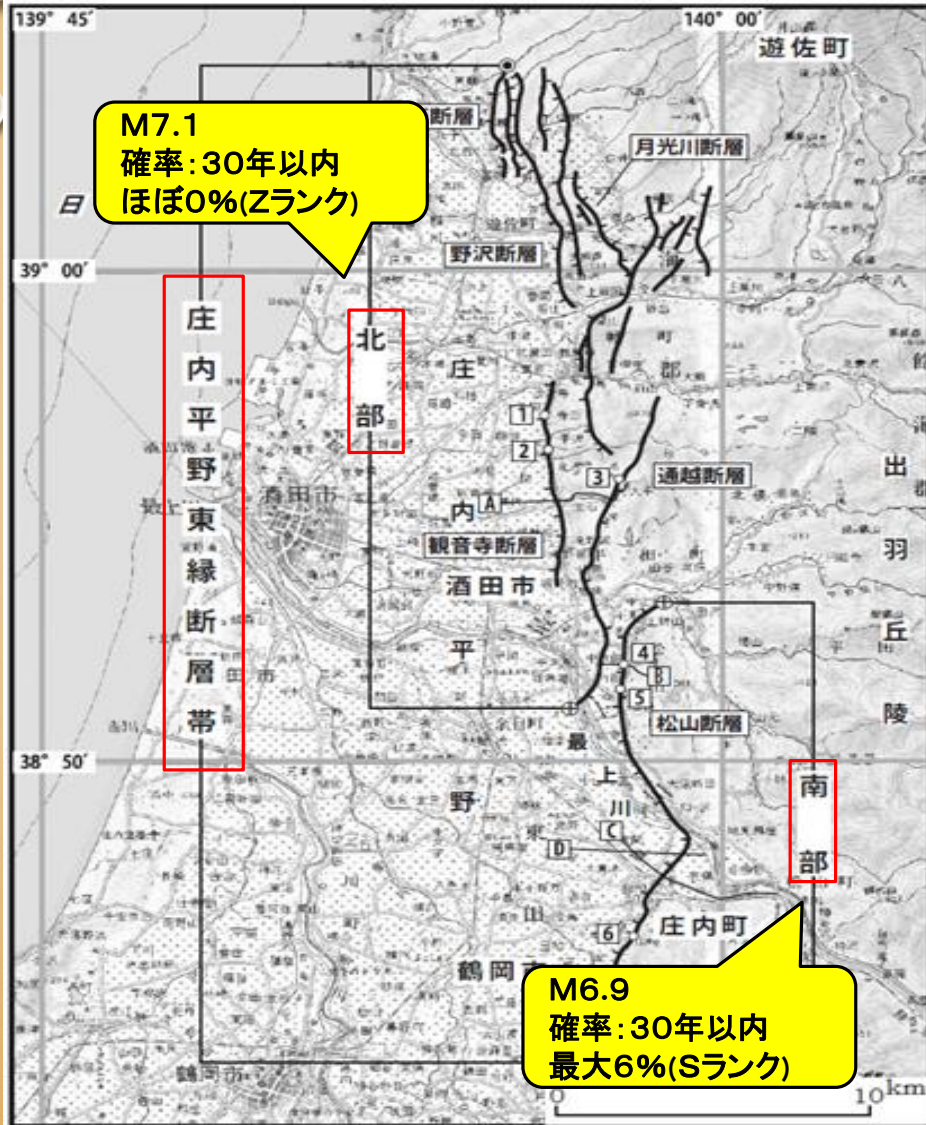
この問題を巡っては、日本の漫画家の「予言」が派生し、「2025年7月5日に大地震が日本を襲う」といった科学的根拠のない情報が日本や海外のSNSで拡散しています。

こうした情報について、気象庁の野村竜一長官は13日の会見で、現代の科学的知見では日時と場所を特定する地震の予知は不可能なため「デマである」との見解を示したうえで、「そのような情報で心配する必要はない」と呼び掛けました。

その一方で、日本ではいつでも地震が起きる可能性があるとして、日頃から地震の備えの確認をするように求めました。

2 地震災害に備える(断層)

庄内平野東縁断層帯と日本海東縁断層帯



庄内地震(北部) 1894年10月22日 M7.0



酒田に大きな被害を及ぼす断層

- ・ F30 (M7.8、最大震度7)
- ・ F34 (M7.7、最大震度6強)

庄内沖地震

1833年12月7日 M7.5

新潟地震

1964年6月16日 M7.5

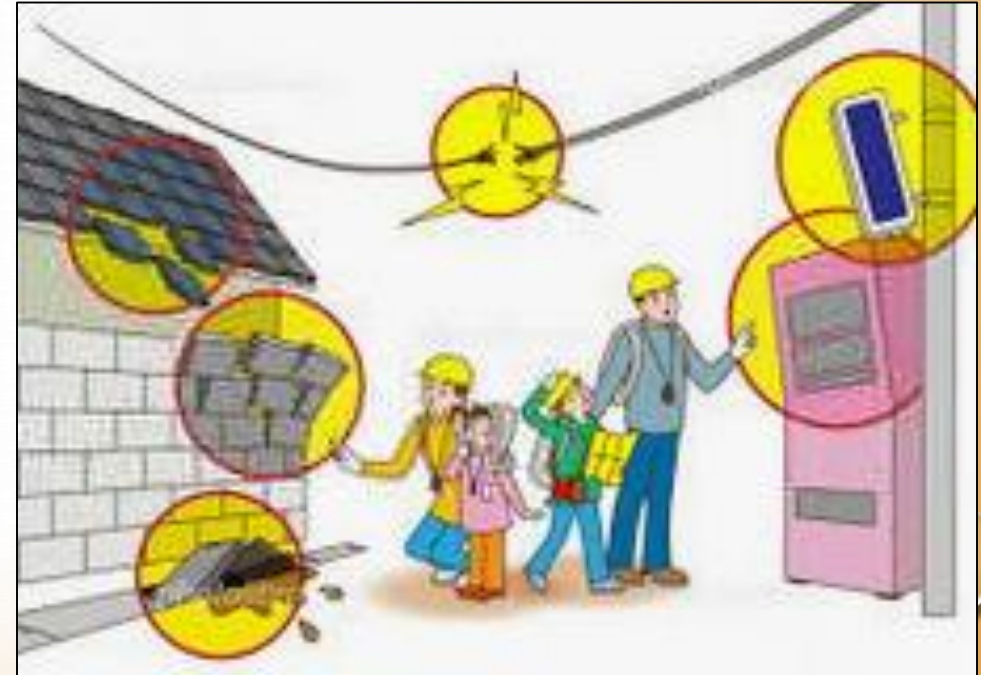
日本海中部地震

1983年5月26日 M7.7

2 地震災害に備える(屋外)

平常時:避難経路の確認

- ① 事前に避難経路に倒壊する恐れのある家屋・ブロック塀や倒木の恐れのある樹木を確認しておき、その場所を通過する際は、道路の反対側に沿って避難するか、倒壊等の恐れのない別の経路を通して避難する
- ② 家屋等の倒壊・倒木により通行できない場合は、予備経路を活用するなど**事前に確認した記憶を基に避難**する



2 地震災害に備える(屋内)

平常時:家具の置き方を工夫

1

家の中に
逃げ場としての安全な
空間をつくる

部屋がいくつもあり、人の出入りが少ない部屋がある場合、家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるような配置を考える。



2

寝室、子どもや
お年寄りのいる部屋には
家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。
子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる危険性があります。



3

家具は倒れにくい
ように置く

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。畳の上に置く場合は、家具の下に板を敷く。



4

安全に避難できる
ように、出入口や通路
には物を置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすい物を置かない。また、玄関にいろいろ物を置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうこともあります。



手の届くところには…
懐中電灯・スリッパ・ホイッスルを!!

2 地震災害に備える(行動)

地震発生時:屋内での行動

地震発生

その時
どう行動するか



1

まず自分の身の
安全を確保

家具などが倒れたり落下物の危険性があります。机の下などに急いでもぐり込み、身の安全を確保しましょう。激しい揺れで動けない場合は、手近なふとんや座ぶとんで頭を保護します。



2

揺れが
おさまったら
すばやく火の始末

すぐに火が消せる場合は火の始末を。余裕がなければ無理をせずに身の安全を確保し、揺れの合間を見て火の始末をする。ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜く。(避難時は、電源ブレーカーを落とす)



3

非常脱出口を
確保する

地震の揺れによって建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがあります。ドアを開けて逃げ口を確保しておく。特に中高層住宅では注意。



4

火が出たら
すぐ消火を

天井に燃え移る前ならば、初期消火が可能です。「火事だ!」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め消火に努めましょう。



5

外へ逃げるときは
あわてずに

瓦や窓ガラスの落下の危険があるので、むやみに外へ飛び出さない。家屋の倒壊や火災の危険がある場合は、落下物に注意して避難する。



3 津波から逃げる（警報等と避難行動）

警報等	発表される津波の高さ		取るべき行動
	数値での発表 (津波の高さの予想区分)	巨大地震の 場合の発表	
大津波警報 (特別警報)	10m超 (10m～)	巨 大	沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台や避難ビルな どの安全な場所へ避難して 下さい <u>ここなら安全と思わず、 より高い場所を目指し て避難しましょう</u>
	10m (5m～10m)		
	5m (3m～5m)		
津波警報	3m (1m～3m)	高 い	
津波注意報	1m (20cm～1m)	(表記 しない)	<u>海の中にいる人は、ただち に海から上がって海岸から 離れて下さい</u>

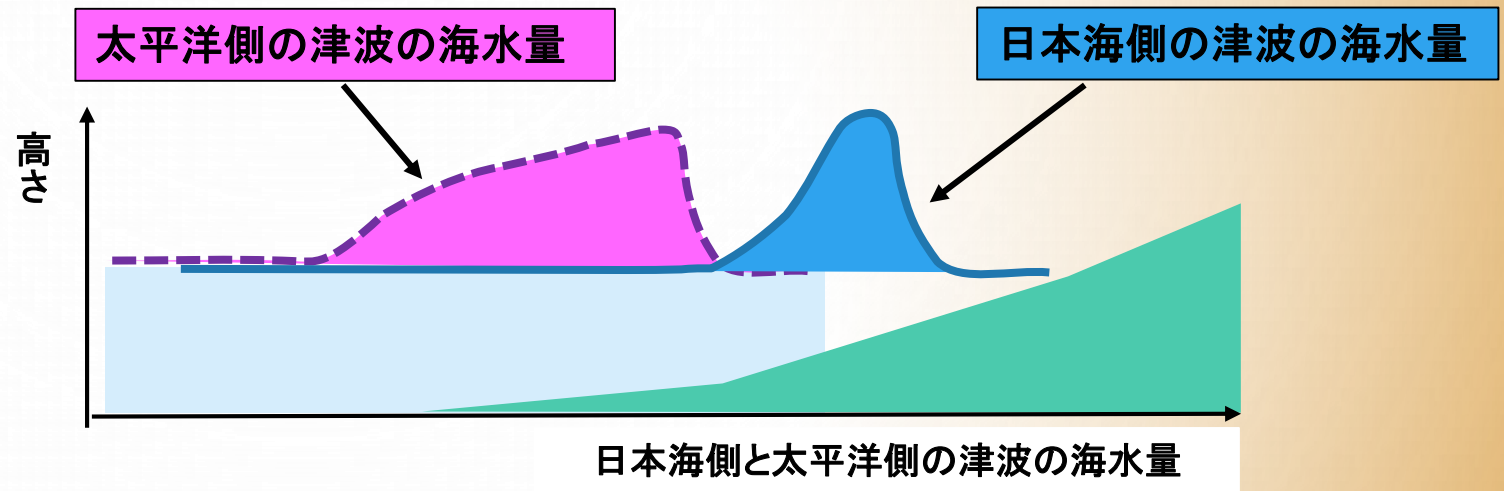
12



3 津波から逃げる(日本海の津波の特徴)

① 津波の海水量は少ない

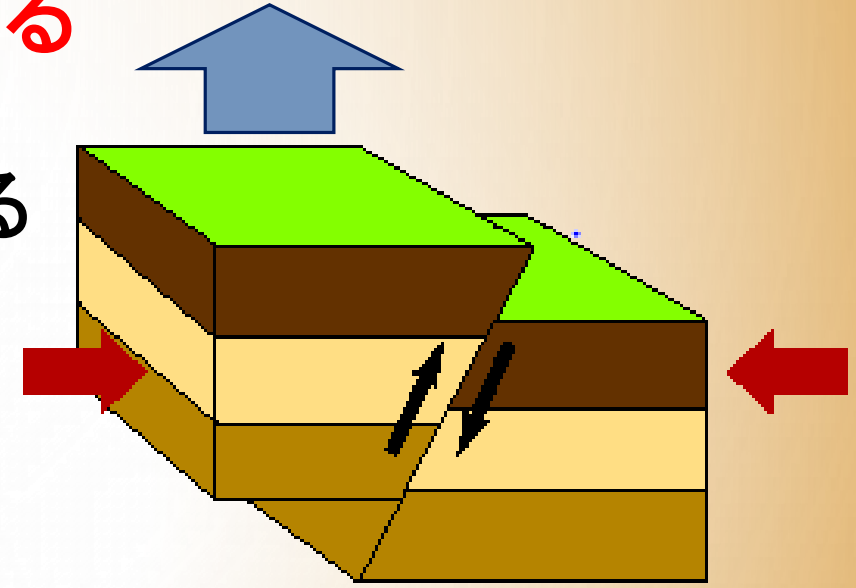
太平洋側の津波と比べると、断層の規模・動きが小さいので、津波の海水量は少ない



② 地震発生後の津波の襲来は、太平洋側よりも早い 震源が沿岸に近い

3 津波から逃げる(日本海の津波の特徴)

- ③ 地震の規模に比べて津波が高くなる
震源が浅く、断層が高角であるため、
持ち上がる 海水の体積が大きくなる



- ④ 津波は繰り返し、収まりにくい
日本列島と大陸で何度も反射するため、
警報が長時間継続する

3 津波から逃げる(津波避難の三原則)

東京大学 片田敏孝教授

① 想定にとらわれるな！

相手は自然、想定を超える事態も当然あり得る
津波浸水区域を示したハザードマップを鵜呑みにしない

② 最善を尽くせ！

「ここまで来れば大丈夫だろう」ではなく、より安全な場所まで避難する等、その時できる最善の行動をとる

③ 率先避難者たれ！

まず自分が率先して避難するその姿を見て他の人も避難し、結果的に多くの人を救うことに繋がる

うのすまい

津波襲来時、釜石東中学校と鵜住居小学校の生徒・児童約570人は、直ちに避難し、更により安全な場所へ避難して全員が助かる



釜石の奇跡!!

大津波警報の中、避難する釜石中学校と鵜住居小学校の生徒・児童たち



3 津波から逃げる(避難のポイント)

① 地震の揺れの程度で判断しない

明治三陸津波地震(1896年)の震度3程度でも大津波が襲来

② 根拠のない俗説などを信じない

日本海中部地震(1983年)まで「日本海側に大きな津波はない」

③ 引き潮がなくても津波は来る

津波の前触れとして必ず引き潮があるわけではない

④ 「遠く」よりも「高く」

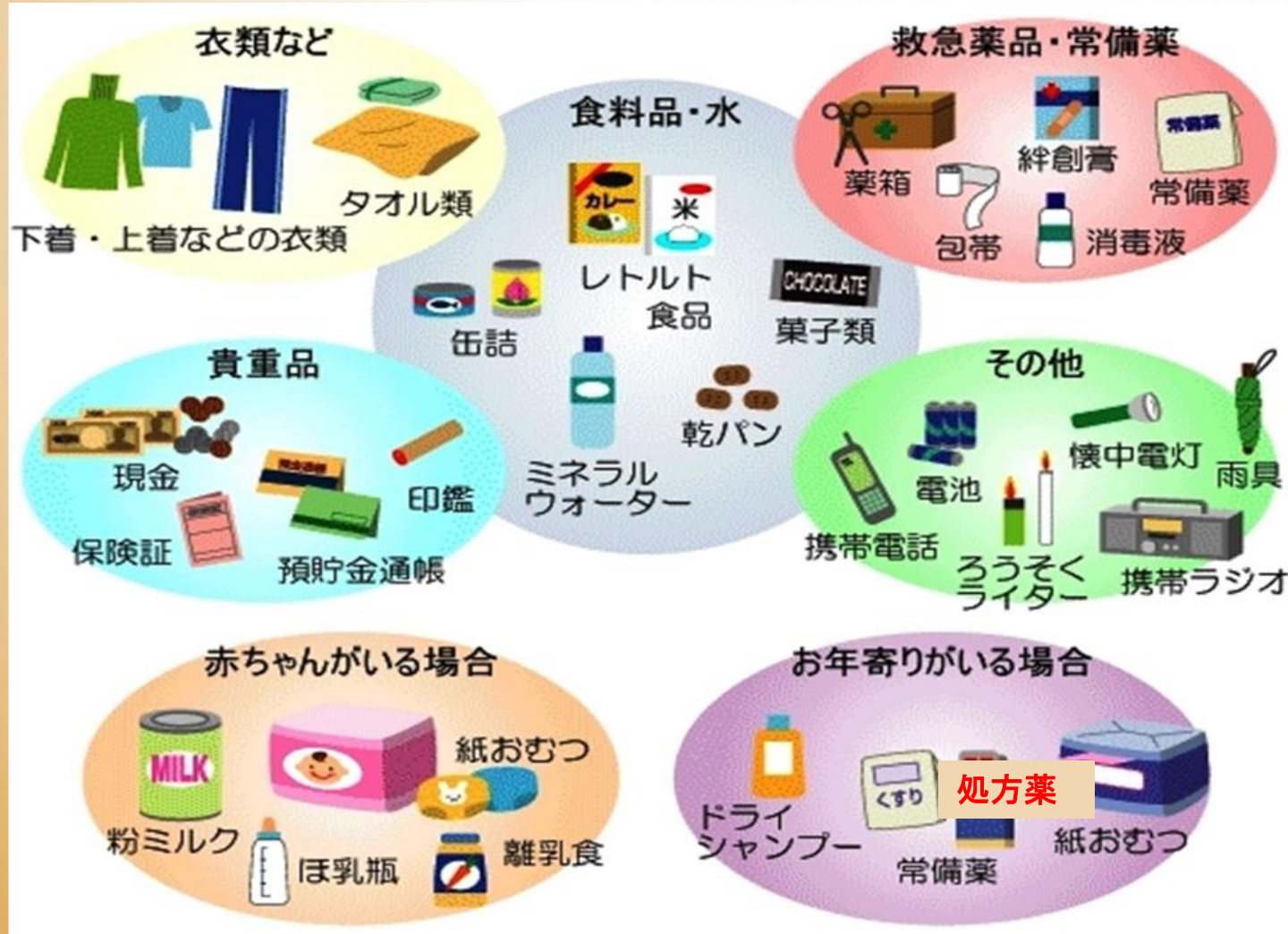
避難に十分な時間的余裕がない場合は、近くの津波避難ビルなどに避難

⑤ 避難の原則は徒歩

東日本大震災で、車で避難して遺体で発見されたドライバーは約700名
但し、避難行動要支援者に限定した利用は容認できる

4 その他(非常持出品)

- 避難する時に持ち出す最小限の必需品で、**欲張りすぎないのが重要**
- 最大で男性15kg、女性10kg程度をリュックサックなどに入れて保管



台風の接近!!
(一時的な避難)

ペットボトル
(500ml) 1本



スナック菓子など



4 その他（備蓄）

ライフラインが止まった場合に備えて、飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。

- ・飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）
- ・非常食 3日分の食料として、ご飯（アルファ米など）、ビスケットなど
- ・トイレットペーパー、マッチ、ろうそく
カセットコンロなど

※ 最低限「3日分」ですが、「1週間分」の備蓄が望ましい。

※ 飲料水とは別に、トイレなどの生活用水も必要です。
水道水を入れたポリタンクの用意や、お風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。



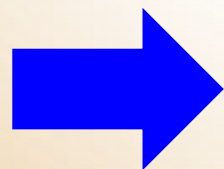
4 その他（情報収集 パソコン）

[illegible]

4 その他（情報収集 スマホ）



「酒田市公式」で
インターネット検索



酒田市公式ホームページのトップページ



防災・消防・救急 ハザードマップ
の入口

4 その他（情報収集 ライン）



酒田市の公式ラインのメニューから「防災・消防情報」を選択



「防災・消防情報」のメニュー

酒田市防災ガイド：酒田市公式ウェブサイト

災害が近づいていたら

さかたまっぷ

避難場所や津波・河川浸水ハザードマップ、内水氾濫マップを地図でみる ▶

高齢者や乳児の避難
(ホテル避難) ▶

ペットとの避難 ▶

災害伝言ダイヤル
171 ▶

災害情報の伝達 ▶

日頃から備える



酒田市民防災ガイドブック
(PDFが開きます) ▶

防災ラジオ ▶

14ヶ国語で情報提供
多言語防災アプリ
Safety tips ▶

ハザードマップや防災ガイドブックを見る

終わり

ご清聴 ありがとうございます